

特別支援教育における魅力ある授業づくり実践編

知的障害特別支援学級における生活単元学習の指導

— 子どもの思考過程に沿った単元構成 —

実践のポイント

- ・生活単元学習の重要な特色の一つに「児童生徒が、課題を成就するための一連の活動に目当てと見通しを持ち、主体的に取り組めるようにすること」があります。
- ・「主体的な活動」と分かっているながら、実情は「教科の内容を指導しなければいけない。」という思いが先行し、教師主導の各教科の内容を集めた合科学習となっていないませんか。

子どもの思考過程に沿った単元構成により、子どもが強い目的意識を持って主体的に取り組む、達成感や成就感を持つことができた知的障害特別支援学級の実践を紹介します！

授業実践 単元名「花鳥園遠足でみんなと仲良くなろう！」

○児童の実態

高学年としての自覚を持つ5、6年生4人は、明るく前向きな性格で笑顔が絶えません。自分の興味があることに対しては、意欲的に取り組むことができます。しかし、場や状況に合った会話や言葉遣いに難しさがあり、必要であっても同年代の友達に声を掛けられないなど、「人と関わる力」が弱いところが見られます。また、学習においても地道な努力を継続し、「最後までやり抜く力」が弱いところが見られます。

○最初に考えた単元構成

「教科の内容を入れて指導しなくてはならない」という考えの下に、1時間ごとの学習活動で身に付けさせたい力を教科・領域ごとの内容に分けて考えました。特に算数の学習を花鳥園遠足（中学校区交流会）で生かせないかと考えました。その結果、単元として一つ一つの活動につながりがなくなってしまいました。（資料1）

○練り直した単元構成

この時期の4人にとって、生活上の目標（課題）は、「花鳥園遠足でみんなと仲良くなりたい」です。今年度は、リーダーとしての自覚と意欲を持たせる手立ての工夫や他校の児童生徒のことを考えた活動の設定など、子どもの思考過程に沿った単元を構成することで、一層、主体的に活動に取り組むことができると考えました。また、このような活動を通して、児童の苦手な面も改善できると考えました。そして、遠足当日で「自

資料1 最初に考えた単元の指導計画

段階	時	・ねらい ◎学習課題	関連する教科・領域
見通す	1	・中学校区交流会の内容やねらいを知り、今後の活動に見通しを持つことができる。 ◎花鳥園へ行こう！	学活
	2	・花鳥園がどんどこかを知り、意欲を持つことができる。 ◎花鳥園って、どんどこかな。	社会
深める	3	・自分の役割を理解し、せりふや流れを覚えることができる。 ◎始めの会や終わりの会の司会をやろう。	学活
	4	・グループ紹介カードを作ったり友達カルタをしたりする活動を通して、他校の友達の名前を覚えることができる。 ◎グループの友達の名前を覚えよう。	学活
	5		
	6	・友達のことを考えながら、意欲的にネームプレートを作ることができる。 ・パソコンでローマ字入力ができる。 ◎参加賞を手作りしよう。	図工
	7		国語
	まとめ	8	・いくつかの品物カードを合わせて200円分になるように計算することができる。 ・実際に200円分のお菓子を自分で買うことができる。 ◎おかしを買いに行こう。
9			
まとめ	10	・既習事項を使って、練習問題を解くことができる。 ・練習問題を解くことを通して、既習内容の理解を深めることができる。 ◎算数で花鳥園たんけんをしよう。	算数
	11		
	12	・交流会での出来事や感想を新聞にまとめることができる。 ◎花鳥園新聞を作ろう。	社会 国語

学習課題に必然性がなく、1時間ごとの活動につながりがありません。そのため、子どもが目的意識を持ちにくく、主体的な活動にするのが難しくなることも予想されました。

分の役割が上手にできてよかった」「みんなと仲良くなれた」という気持ちを持てるとともに、他校のみんなからも認められることで達成感や成就感を味わうことができると考えました。単元目標を

「遠足の準備などの活動を通して、他校の友達や先生と仲良くなることができる。」と設定し、子どもの思いを大切にしたい単元計画に再構成しました。(資料2)

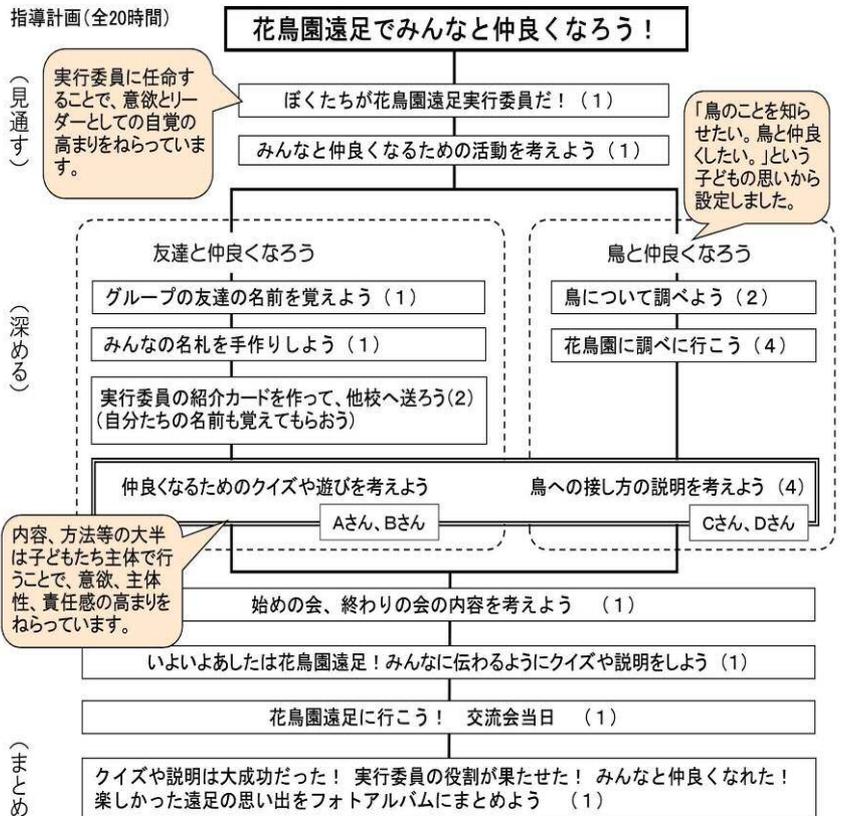
指導・支援の実際

○子どもの思いを大切にしたい単元の展開

みんなと仲良くなるための活動では、4人の次のような思いから課題が生まれ、展開していきました。**Aさん、Bさん「みんなと仲良くなるために鳥クイズを出して楽しませたい」**→鳥について学校で調べたり、実際に花鳥園に行き調べたりしたことを基に、クイズを作っていました。出題形式も、2人の意見から4分の1クイズと3択クイズとなりました。(写真1)

Cさん「鳥を怖がる友達に接し方をアドバイスしたい」、Dさん「自分も鳥とうまく接したいし、みんなにもアドバイスをしたい」→鳥への接し方を伝える活動を入れました。教師は、説明やクイズという方法を予想していましたが、Cさんの「劇にして伝えよう」という提案にDさんと相談し、劇仕立てにして伝えることになりました。

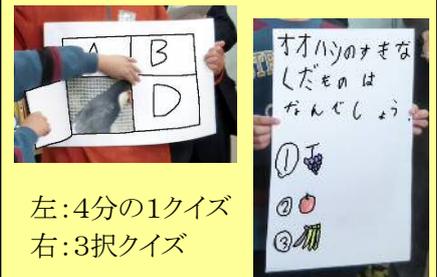
資料2 練り直した単元の指導計画



(まとめる)

子どもの思考過程に沿った活動として構成することで、単元全体を通して、自然な流れとまとまりができています。

写真1



左:4分の1クイズ
右:3択クイズ

単元を通しての子どもの様子 (一部抜粋)

- ・書字の苦手な子が、渡す相手を意識して紹介カードを丁寧に作成することができました。→ **人との関わり、意欲、責任感**
- ・授業だけでなく、休み時間にも自分たちで進んで調べたり、練習したりする姿が見られました。→ **主体性、意欲、責任感**
- ・自分たちで撮影した写真を用いたクイズ、自分たちで考案した発表方法など、創意工夫し活動を楽しんでいました。→ **主体性、創意工夫、満足感**
- ・4人は、自分たちの発表やクイズの出来にととても満足していました。→ **満足感、達成感、成就感**
- ・4人は、他校の友達や先生たちから「クイズが楽しかった」と言われ、うれしそうでした。→ **達成感**
- ・鳥が苦手なDさんは、「みんなも鳥と仲良くなれるように」と今回の活動を通して、自分の手で餌をやることができました。他の子にもアドバイスすることができました。→ **自信、人との関わり**
- ・遠足当日、他校の児童生徒に積極的に声を掛け、弁当も一緒に食べていました。→ **人との関わり**